

令和4年度 教育委員会と学校の未来について語る会 記録

令和4年11月19日(土) 14:00～15:30
東十郷コミュニティセンター 多目的ホール

【出席者】

〈坂井市教育委員会 7名〉

林晃司教育長、中田誠一郎教育部長、上田裕明教育審議監、井尻三千代教育総務課長、宇野正昭学校教育課長、高倉尚美文化課課長

〈坂井市PTA連合会 14名〉

稲澤宗一郎会長、坪田俊弘会長、矢原俊宏副会長、小林寛史副会長、石津直哉副会長、岡本紀和顧問、釣部裕顧問、村中めぐみ顧問、森下恭至理事、山岸めぐみ理事、米田直弘理事、増谷富由紀理事、牧野優理事、西健理事（坂井中校長）、矢納佳美事務局（坂井中教頭）

（1）開会の挨拶

坂井市PTA連合会 会長 稲澤 宗一郎

- ・コロナ禍の中、様々な対応をしていただき、安心して学校に送り出せていることに感謝申し上げます。

坂井市教育委員会 教育長 林 晃司 様

- ・本日は、PTAの皆様には様々なご意見をいただき、お話し合いができますようお願いいたします。

（2）懇談会

【第1部】質問・要望事項について

司会：坪田 俊弘（坂井市PTA連合会副会長）

- ・第1部は、保護者や学校からの教育委員会への意見や要望について、注目されている内容について、各担当課の皆様からお話をお聴きしたい。

＜注目される事項＞

①部活動地域移行について……………現在の状況、今後の予定

司会

- ・部活動の地域移行について、中学校だけでなく、小学校の保護者からも、今後どのような方向に進んでいくのか、坂井市の方針について知りたいという声寄せられた。部活動地域移行について、現在の状況や今後の方針について、関係各課よりお願いしたい。

学校教育課 上田教育審議監

- ・部活動地域移行は、子供が減る中で部活動が適正に運営できるのか、経験のない教員が部活動を指導している、教員が休日に指導しているという様々な課題の中で、スポーツ庁、文化庁の提言で始まった。まずは、休日の活動について、令和7年度末までに地域移行を進めていくという流れである。
- ・坂井市では、スポーツや文化に触れる機会を十分に子どもたちに確保していく、子どもたちのニーズに合わせた活動ができるための手立てをしていくよう進めていく。
- ・まずは、休日の活動について、学校関係者、関係団体との意見交換、指導している教員、外部コーチ等の意識調査から進めている状況。
- ・小学生も含めた子供たち、保護者の意向もお聞きして、地域の実状に応じて進めていく。

中田教育部長（生涯学習スポーツ課長代理）

- ・地域によって、モデルとして進めている状況。鯖江市の体操、福井市の剣道など。
- ・もともと地域に土台があった地域が進めている。その他はまだ取り組みは進んでいない。
- ・坂井市は、来年度、地域の指導者とマッチングできるところから進めていく。地域の団体、指導者等とマッチングができたいくつかの部活動で進める予定である。具体的な案はまだ発表できる段階ではない。教

育委員会として支援していく。

米田理事

- ・話を伺うと、地域移行は、外部コーチを呼ぶことがメインになるのではないかと。鯖江市のようにもともと地域での力があるところでない、（指導者がいないため）難しいのではないかと。思う。

教育部長

- ・引き続き教員が、地域移行の指導員として指導することも可能。ただ、受け皿となる団体等において、教員が指導するということになる。受け皿とは、地域の総合スポーツ団体やクラブが考えられる。
- ・福井市の剣道では、剣道協会が県立武道館に子供たちを集めて指導している。これは、これまでも練習会として活動をしていたが、現在地域移行の活動としても行っている。

小林副会長

- ・地域移行でも、学校の枠を崩さない方がよいと思う。休日に町外に練習に行くというのは保護者の負担も大きい。

②少子化に向けた対応について……部活動、子供会等

司会

- ・少子化に関して、児童生徒数が減少している状況から新たな課題がでてくることが予想される。今後の少子化に向けた対応について関係各課よりお願いしたい。

中田教育部長

- ・三国中学校区からの少子化の視点からの部活動地域移行、分団の活動について。
- ・子供が少なくなることで、例えば、チームでの活動が難しくなることが予想される。その場合は、校区を超えての編成も考えていくこともある。
- ・三国町の分団については、三国町独特の活動である。子どもが少なくなっている地域では、各地域を合併してチームを組んで対応しているが、それも難しくなっている状況である。実行委員会でより良い方向を考えていく。

③特別支援教育について……………障がい理解、環境づくり

司会

- ・教員や児童生徒への障がい理解の教育や、障がいをもつ児童生徒の支援のための環境づくりについて、学校教育課よりお願いしたい。

上田教育審議監

- ・障がいの状況はそれぞれであるため、支援が適切にできるよう、市内のすべての学校に支援員を配置しており、聴覚障がいのある児童や車椅子を使っている児童、排泄が難しい児童の補助等をしている。
- ・障がい理解については、例えば、通常学級の児童に特別支援学級の児童のことを理解するための授業を行うなどしている。差別や偏見などが生じないように、小学校1年から始めており、学年の理解に応じた指導を行っている。また、障がいだけでなく、多様な考えや立場の人と互いを尊重して生活していく基礎となるよう指導している。
- ・教職員の特別支援教育の研修は、各学校で重点を置いて研修を行っている。特別支援学級に関わる教職員も増えてきており、理解は進んでいる。
- ・このように環境づくりや障がい理解を進めているが、まだまだというところがあれば、改善に努めるため、ご指摘をいただきたい。

村中顧問

- ・知的障がい、発達障がいなど、目に見えにくい障がいをもつ児童生徒が増えてきている。
- ・子供の時から適切な支援を受けているかどうかで大人になったときに全く違ってくるので、子どもの時から適切に支援をしていただきたい。
- ・入学時に支援会議をしているが、その時に保護者から必要な支援について要望があった場合には、学校の判断で実施しないのではなく、必要な支援であることを理解して実施していただきたい。

- ・子どもたちが適切な支援を受けながら、楽しく学校に通えることができるように、そして、中学校、高校、大学と進んでいけるように支援をお願いしたい。
- ・障がいがあるからかわいそうではなく、障がいに対する適切な支援が受けられないことがかわいそうなのである。そのような「障がいがかわいそう」という考えについても見方が変わるよう対応していったきたい。

上田教育審議監

- ・貴重なご意見ありがとうございます。
- ・本年度から、坂井市教育委員会に特別支援教育の指導員を配置した。各学校を訪問し、それぞれの児童生徒に必要な支援ができるように助言している。

林教育長

- ・今後、外国人の児童生徒も増えていくと思う。日本の人口が減っていく中、外国人の受け入れも増えていくことが予想される。障がいの有無や外国人であること、家庭の状況など、30人お子さんがいたら、30人が学校が楽しく、将来に夢をもって健やかに育っていくために必要な支援をしていくべきと考えている。
- ・このようなご意見をどんどん出していただきたい。学校、PTA、教育委員会が気楽に様々な意見、アイデアを話し合えることが大切である。このような関係を構築していけるよう、これからもお願いしたい。

森下理事

- ・障がいのある児童生徒は、放課後デイサービス等に行っているが、福祉分野との連携はどうなっているか。

宇野学校教育課長

- ・福祉分野では、スクールソーシャルワーカー（SSW）を配置して、福祉と学校との橋渡しをしている。状況によっては、家庭との橋渡しをし、よりよい支援ができるようにしている。

森下理事

- ・福祉領域との連携が大切と考えている。例えば、言語理解の難しいお子さんに、適切な視覚支援などができるとよいと思う。
- ・小学校入学前に、障がいがある児童の保護者は大きな不安を抱えているが、どのように対応しているか。

宇野学校教育課長

- ・就学前の対応として、坂井市教育委員会に幼稚園教諭・保育士の資格のある職員を置いて対応している。各園や保護者と情報共有をして就学に向けて進めている。

森下理事

- ・就学後、仕事が続けられるだろうか、就学前の健康診断等でパニックにならないだろうかなど、非常に心配している保護者がいるので、PTAとしても助けていかなければならないと考えているが、学校としてもよろしくお願いしたい。

④ ICT活用について……タブレット活用、Wi-Fi環境、家庭での活用

司会

- ・昨年度もこの語る会で話題となったが、日々進んでいる内容のため、現在のタブレットを活用した教育の状況や環境整備の進捗について、関係各課よりお願いしたい。

上田教育審議監

- ・1人1台タブレットについては、小学校1年生から自分で接続して使用している。低学年では、写真を撮影し、その写真に手書きで字を書き込んだりできている。小学校3、4年生になると、ローマ字入力ができる児童もいる。中学生になると、検索機能などを使いながら情報を集めたり、まとめたりと活用している。
- ・持ち帰りについては、10月に坂井市教育委員会から持ち帰りについての「手引き」を配布し、各校で持ち帰り学習について進めていけるようにしている。
- ・保護者の方は、情報モラルについて特にご心配かと思う。手引きには、持ち帰りのアカウントの管理のことや健康のことなども示してある。保護者向けの手引きも学校に配布しているので、学校から届いた際に

はご覧いただき、家庭での使用の場合には、保護者の力をお貸しいただきたい。

- ・10年前とは違い、電子端末を持っているのが当たり前となっている。使いこなす、不適切な使い方をしないことを教えなければいけない時代に入っている。学校だけで解決することは難しい。家庭・地域の協力をお願いしたい。

井尻教育総務課長

- ・Wi-Fi 環境について、すべての普通教室には整備している。学校からは会議室、特別教室への要望も聞いているが、教室数が非常に多く大きな予算が必要であるため、優先順位をつけて整備していく。
- ・特に、個別の支援をしている教室、相談室、特別教室には優先的に整備していく。
- ・来年度から全国学力調査も中学校でタブレットを使って一斉に行うと聞いている。中学校から優先して対応していく予定である。

村中顧問

- ・読み書きに支援が必要な児童生徒について、タブレットでの学習に関心が高まっている。しかし、個々のレベルに応じたアプリが学校のタブレットにはダウンロードできないと言われている。また、個人のタブレットを学校に持っていても、学校のWi-Fiに接続することはできないため、学校で適切な支援が得られず、相変わらず読んで書かなければいけないため、意欲を失っている児童がいると聞いている。約束事を明確にしたうえで、学校のタブレットにアプリをダウンロードするか、個人のタブレットをWi-Fiに接続するか、何らかの手立てをお願いしたい。

上田教育審議監

- ・セキュリティのため、簡単に対応できない状況ではあることは事実ではあるが、個別の支援においてタブレットが有効であることも承知している。ご意見を参考に対応を考えていく。

<各中学校区から出された内容>……上記内容以外に伺いたい内容

①通学路について

米田理事

- ・学校でも圧倒的に意見が多く、この場でお伝えしたい。
- ・改善や要望を伝えたいときに、わかりやすい手順を教えてください。要望がある時に、どこに出せばよいか、わからないまま時間が過ぎてしまう。教育委員会から手順を示していただきたい。
- ・これまで通学路について要望を出させていただいておりますが、いつも丁寧に対応していただいているが、他の地域との整合性がとれないためというような回答の場合がある。しかし、それぞれの場所にそれぞれの理由があるため、枠にはまらない、柔軟な対応をお願いしたい。交通安全に関する対応は、子どもに何かがあつてからではいけないので、ぜひ柔軟な対応をお願いしたい。

宇野学校教育課長

- ・通学路の改善の窓口について。日頃のPTA、地域の見守り隊の活動に感謝申し上げます。通学路等の改善点については、一番よく状況をわかっている保護者、地域の方に、まずは学校に意見を寄せていただきたい。
- ・道路は、国道であれば国、県道であれば国土木、市道であれば市と所管が分かれています。学校からの要望は、それぞれの所管と現場確認の場があり、情報共有して進めている。現場確認には警察等も関わっている。まずは学校を窓口としてご意見をお願いしたい。
- ・具体的な箇所について、現場確認したうえで、所管につないでいくことは、これまで通り積極的にしていく。
- ・市として、一定の基準の中で進めていきたいというところはあるが、安全を優先することに関しては、市としても思いは同じである。警察や道路管理者と協力を得ながら進めていきたい。引き続きご協力をお願いしたい。

米田理事

- ・丁寧に対応していただいていることは理解している。地区によって対応が違うことも難しいことは理解している。また、PTAでも見守り活動や通学路点検をしている。その中で危険箇所が何十箇所もある。す

べてを改善して欲しいとは考えていない。要望は、特別な箇所があるから要望しているので、ぜひ前向きに対応していただきたい。

②ヘルプカード、「マスクつけられませんシール」等の理解について

村中理事

- ・障がいをもつ児童が、ヘルプカードをもっていたり、「マスクつけられませんシール」などを付けていたりしている。「マスクつけられませんシール」をつけているのに、どこへ行ってもマスクをつけてないことを指摘される。そのことで不安があり、家の外に出たときに保護者の側から離れられなくなった児童がいる。公共施設で指摘されることも多いと聞いている。これらについて、周知・理解をお願いしたい。

中田教育部長

- ・各部所、部局を超えて周知していきたい。

【第2部】ふるさとが好きな子どもたち、ふるさにと住み続けたいと思う子どもたちの育成について

司会：矢原 俊宏（坂井市PTA連合会副会長）

①ふるさと教育について

司会

- ・ふるさと「坂井市」の歴史等、子どもたちに伝え続けて坂井市のことを理解し、ふるさにと愛着を持てるように授業に取り入れてほしいというご意見が多くみられた。取り組みについてお願いしたい。

上田教育審議監

- ・坂井市という言葉は小学校3年生から教科書に出てくる。小学校4年生で福井県という言葉が出てくる。
- ・坂井市では、地域と進める体験事業を実施している。町探検などを行い、さらに地域の特色を発信する県の事業である地域のCMづくり活動に取り組んでいる。毎年市内で4、5校実施し、5年計画で全ての学校で実施する予定である。
- ・学校ごとに、古城マラソンで丸岡南中学校の生徒が多数参加したり、名古屋から三国への新たなバス路線ができることを盛り上げようと三国北小学校の児童がバスの絵を書いたり、教育委員会以外の事業所等からの活動にも積極的に取り組んでいる。

中田教育部長

- ・生涯学習スポーツ課では、「わんぱく王国」といった活動を行っている。このような特色ある活動は坂井市のみである。海ではサーフィン、磯観察、山ではキャンプなど、坂井市の自然の特色を生かした事業（寄付参画事業）を行っている。自然体験の事業を今後も展開していく。

高倉文化課長

- ・三国龍翔館をリニューアル中である。小学校では3年生の時に坂井市という言葉が出てくる。全員に龍翔館に来館して学習するなど計画していきたい。

稲澤会長

- ・これまで、わんぱく王国に5回参加している。サップ、磯体験など。坂井市が好きになるということは、自分の住んでいるところを知ることから始まる。坂井市の自然を体験することを今後も続けてほしい。

矢原副会長

- ・自分は、三国に住んでいて、海に近いので、サーフィンを始めた。また、近くにスケートボードをする場所があるので始めた高校生などもある。近くでできるスポーツに若者が取り組むこともよいと思う。

②地域とともに取り組む活動の推進について

司会

- ・ふるさとが好きな、ふるさにと住み続けたいと思う子どもたちを育てるには、地域の方とさまざまな関わりをしていくことが必要ではないかという中で、様々なご提案をいただいた。地域とともに取り組む活動についてお願いしたい。

上田教育審議監

- ・ふるさと学習の中で、その都度、地域の皆様の協力をいただいている。コミセン、老人会など、農業体験、地域のイベントを開いていただいている。体験を通して、地域の方にお世話になったことで、将来地域に貢献したいという心情が育っていく。坂井市として、それぞれの町の体験ができることも考えていく。

中田教育部長

- ・わんぱく王国事業は、地域6団体の参画を得て立ち上げた。地域の団体による地域協働として効果的である。民間、公共施設の指定管理者が協力して取り組む事業である。さらに参画団体を増やしてより充実した活動になればと考えている。

高倉文化課長

- ・住み続けたいと思う理由は、好きなところがあるからと考える。文化や芸術、自然、食文化、眺望など。好きなものを守り続けていくことが文化課としての仕事である。そのために、坂井市の文化財を守り、活用し、未来に継承していくため、「坂井市文化財保存活動地域計画」を作成した。1682の文化財があり、文化課だけでは保存できない。まちづくり協議会でワークショップを実施している。草の根的な活動であるが、今の坂井市の文化財を守っていくために、地域の皆様や学校において、文化財を継承していくことを意識して活動していただくことが大切だと考えている。学校、観光分野等と連携して取り組んでいきたいと考えている。

石津副会長

- ・地域ごとのいわれや伝説など、学校でも触れていくことも大切と思う。地域の方に関わってもらって学んでいければよいと思う。いろいろなことを進めていくことで面白いことができるのではないかなと思う。

③地域企業との連携について

司会

- ・ふるさとに住み続けたいと考えるには、地元で働くという視点や地域の企業との連携についてのご意見も多かった。この点に関してお願いしたい。

上田教育審議監

- ・地域企業との連携については、市長も注目している内容であり、地域と進める体験事業には予算の増額をした。学校が地域の企業を訪問するバス代や、講師を招くことができる。職場体験も十分にできていたが、コロナ禍もあり受け入れ側の企業が遠慮される場合、保育、介護関係へは訪問しづらい場合もあり、今は、ゲストティーチャーを招くことも多い。
- ・地元で働くということがキーワードであると考えているが、丸岡中の家庭科の授業で社会福祉協議会の方で大学卒業2年目の地域の先輩を講師として話を聞いていた。地域の方のお話を聞く機会を広めることもひとつと考える。

教育長

- ・子供が起点、子どもファースト。わが子だったらどうかということを考えていきたい。
- ・学校長に忌憚のない意見をおっしゃっていただきたい。学校とPTAが両輪となって取り組んでいきたい。
- ・今日伺ったことは、すぐに取り組んでいきたい。

(3) 閉会の挨拶

坂井市PTA連合会 小林 寛史副会長

- ・本日は、教育委員会の皆様と貴重なお話をできたことに感謝申し上げます。
- ・いろいろな意見があり、特別支援に関する内容など積極的な意見が出ました。
- ・来年度以降も、この場を設け、意見を交換させていただきますようお願いいたします。